

# 競 技 注 意 事 項

- 1 本大会は、2026 年度日本陸上競技連盟競技規則および本大会競技注意事項によって実施する。
- 2 受付について  
チームの受付は行わない。領収書は本部に用意する。
- 3 アスリートビブス（ナンバーカード）、腰ナンバーカードについて
  - (1)本年度愛知陸協登録者は、登録アスリートビブスを使用する。
  - (2)アスリートビブスは胸と背にはっきり見えるようにつける。ただし、跳躍競技の競技者は、背または胸につけるだけでもよい。
  - (3)トラック種目(800m 以上の種目)に出場する競技者は、招集時に写真判定用の腰ナンバーカードを受け取る。腰ナンバーカードを受け取っただけでは招集を完了したことにならないので注意する。ランニングパンツの右横に、明確に数字が読めるようにつけ、シャツなどで隠れないようにする。
- 4 ウォーミングアップについて
  - (1)事故防止のため、バトン、リレーマーカー、ポール以外は個人またはチームで持参した道具を使用しない。
  - (2)本部での許可がない限り、競技場内での逆走はしない。
  - (3)8:55 までのトラックの利用は、ホームストレートはハードル練習のみとし、第4 コーナーでのバトン練習やこの付近からの流しなども禁止とする。バックストレートの利用は3～8レーンとし、1・2レーンは周回（長距離）用に空けておく。この時間でのスターティングブロックを使った練習はハードル競技のみとする。
  - (4)投擲および跳躍競技の練習についてはピットにおいて係員の指示のもと行うこと。
  - (5)競技中のバックストレートでのウォーミングアップは、競技の支障のない範囲でしてもよい。長距離の競技中は6～8レーンのみ使用してもよい。スタート時は走らない。大会本部や係員からの指示があった場合は速やかに従うこと。移動の際にはメインスタンド前(本部前)は走幅跳の競技中の競技者のみ通行することができる。
  - (6)ハードル競技については3000m 競技中も、ホームストレートで100mH は6・7レーン、110mH は8・9レーンを使って練習ができる（3 台目まで利用可能）。スタート位置に戻る際はトラックの外側を走幅跳競技に支障が出ないように注意して戻る。また、ハードル選手同士の接触がないようにも注意する。
  - (7)投てき種目の練習はできない(メディシンボールでの練習も不可)ので、競技開始前に各ピットで競技役員の指示により行う。
- 5 招集について
  - (1)招集所は第1ゲート（100mゴール付近）のゲートに設ける。
  - (2)参加の招集は**本人が行い、時間に遅れた者は棄権とみなし、出場を認めない。**
  - (3)招集開始時刻及び招集完了時刻は当該競技開始時刻を基準とし、次のとおりとする。

		招集開始時刻	招集完了時刻
トラック競技		30分前	20分前
跳躍競技	走高跳・走幅跳	40分前	30分前
	棒高跳	70分前	60分前
投てき競技（砲丸投）		40分前	30分前

- (4)出場する競技者は招集開始時刻から招集完了時刻の間に招集所の競技者係に、種目、組、レーンを伝え、チェックを受ける。その際、競技者は腰ナンバーカードを受け取る。腰ナンバーカードを受け取っただけでは、招集が完了していないので注意する。
- (5)招集を受けたら、各種目のスタート付近やピットに速やかに移動し、競技開始前に最終コール(点呼)を受ける。
- (6)他の種目を同時に兼ねて出場する競技者は、競技者係（招集所）に事前に申し出て、指示を受ける。

## 6 競技について

### (1) シューズについて

- ①使用するシューズについては、競技規則 TR5.2 を適用する。競技に使用するシューズが適用するかは、各自で「ワールドアスレティックス承認シューズリスト」<https://certcheck.worldathletics.org/>上で使用が承認されているかを事前に確認すること。規定外のシューズ使用者の扱いについては「失格扱い」とする。

※投擲種目においては、令和8年4月10日より、シューズの種類は問わない。(日本陸連HP 4.7)

- ②スパイクピンは全天候用の物を使用し、トラック・フィールドともに7mm以下を使用すること。ただし、走高跳は12mm以下の物を使用する。

### (2) トラック競技について

- ①スタートは、全てのレースで合図を英語とし、不正スタートをした競技者は1回で失格とする。
- ②短距離種目(ハードルを除く)についてはブロック合わせのみとし、スタート練習はしない。
- ③400mまでのレーン使用の競技では、フィニッシュ後も他の競技者の安全のために、自分に割り当てられたレーン(曲走路)を減速し止まる。
- ④ゴール後は、バックストレート側を回るか、ゲートより競技場外に出て、スタート位置に戻る。正面スタンド前は、走幅跳に出場する選手以外は通行を禁止とする。

### (3) フィールド競技について

- ①走幅跳と砲丸投について、各競技者は3回の試技ができる。その中で上位の有効な成績を得た競技者8人は、さらに3回の試技ができる。競技者が8人以下の場合には、全競技者が6回の試技ができる。

- ②走幅跳と砲丸投の1回目の試技が無効試技でない場合は、全て計測する。2回目以降は右表のように計測ラインを設け、計測ラインに満たない試技は無効試技とする。なお、計測ラインは、フィールド審判長の判断で変更する場合がある。

	男子	女子
走幅跳	4m00	3m50
砲丸投	7m00	6m50

#### ③バーの上げ方

- ・男子走高跳の最初の高さは1m30とし、以後は5cmずつ上げていく。
- ・女子走高跳の最初の高さは1m15とし、以後は5cmずつ上げていく。
- ・棒高跳及び混成競技の走高跳の最初の高さは、跳躍審判員で協議し、フィールド・混成審判長が決定する。
- ・走高跳の最初の高さは、天候により変更する場合がある。

- ④トラック競技とフィールド競技が重なった場合、競技審判に申し出てトラック競技を優先すること。原則としてトラック競技出場後にフィールド競技に戻った時点のラウンドの試技から続けることとする。

- ⑤走幅跳と砲丸投の試技数は、天候により変更する場合がある。

- ⑥砲丸投の砲丸は、競技場備え付けの物を使用する。

- ⑦競技終了後は、自分の助走マーカを必ず片づける。

### (4) リレー競技について

- ①リレーのオーダー用紙は、招集完了時刻の60分前までに招集所へ提出する。用紙は記録室に用意する。

- ②リレーのマークは主催者側で用意したものを使用する。

7 選手及び学校・団体関係者はスマートフォン、ビデオ等の情報通信機器類を招集所・競技場所に持ち込むことはできない。撮影については以下を参照のこと。

写真・ビデオ撮影及び携帯電話・スマートフォンの使用について

- (1) 選手の人権保護・肖像権保護のため、競技会における写真・ビデオ撮影について、ご理解とご協力をお願いします。各校、各団体に関係する団体等が撮影を希望する場合は、必ず本部で許可を得ること。その際、渡される撮影用のビブスを必ず着用すること(大会終了時に返却)。
- (2) グラウンドレベルでの携帯電話・スマートフォンの使用については、選手・マネージャー・顧問・保護者を問わず、禁止とする。

〈観客席からの撮影制限〉

- 1 観客席での撮影を禁止させていただくエリアは下記の席です。
  - ◆各種目のスタート後方
  - ◆走高跳、走幅跳、棒高跳の助走後方・着地前方
  - ◆走高跳マットに向かった正面(クリアランス動作中)
- 2 保護者および本人の了解がない撮影を禁止します。
- 3 選手がスターティングブロックの足あわせをしたり、試技を待っていたりする間や、体を動かしているなど準備の行動は撮影を禁止します。
- 4 他者に著しく迷惑をかける行為と主催者で判断した場合は、速やかに警察および関係機関に連絡をとります。

8 各種目3位まで賞状を授与する。

団体申込の賞状は、代表者が団体分をまとめて本部で受け取る。機材のトラブル等で賞状が発行できなかった場合を除き、郵送には対応しない。

9 大会における傷害については主催者が応急手当は行うが、その後は各学校・団体で対処すること。また主催者は責任を負わないものとする。

10 その他

- ・競技者及び団体関係者の競技場への出入りは第1または第4ゲートおよびスタンド両サイドのゲートとし、スタンド下の入り口は利用しない。グラウンドに降りられるのは競技者及び競技役員のみで、応援はメインスタンドおよび芝生スタンドなど、柵の後方のみとする。
- ・競技場には記録は掲示しない。WEBで確認する。
- ・貴重品類の管理は各自で行い、盗難等に注意すること。
- ・競技場の周りにテント及びシートを設置することは認めない。
- ・ごみは各自で持ち帰る。
- ・この競技注意事項に記載されていなくても、主催者が必要と判断した場合、その指示に従うこととする。